

沖縄県教育庁交渉の報告

(2020年1月30日午後1時からはじまって、日をまたいだ31日1時前まで続きました)

沖縄県教育庁交渉に参加しました。伊織さんに会ったサー！（あれっ、ウチナーグチになってしまいました?!）まだ交渉の余韻がからだに残っているようです。伊織さん、すてきな青年だったサー！（あれ、またまた!?)

高校受験の季節がやってきました。受験生たちは最後の追い込みにかかっているところでしょうか。全国でも支援学校ではなく、「みんなといっしょに高校へ行きたい」との願いを持って高校受験に取り組んでいる障害のある生徒たちがたくさんいます。現在大阪では、重度の知的障害のある生徒や人工呼吸器などの医療的ケアの必要な生徒も含めて、3000人の障害のある生徒たちが府立高校で学んでいます。地方によっては障害者の高校入学が進まない現実があります。特に知的障害者の高校入学については、合理的配慮が全くなされていないというのが実態です。



沖縄の仲村伊織さんは、2年間県立高校を受験しましたが「高等学校教育を受けるに足る資質と能力が認められない」と、50年以上も前の古い「文部省通知」を持ち出してきて、不合格にされました。「入学者選抜は、各高等学校、学科等の特色や、選抜方法の工夫など適切な配慮を行うこと」など、新しい文科省の「通知」は顧みられないままに。いわゆる「適格者主義」をかたくなに押し付けてきたのです。

去年は80名の定員割れがあったにもかかわらず、伊織さんともう一人だけが不合格とされました。県民の税金で運営する県立高校が、募集人員に大幅に満たないのに、高校で学びたいという切実な願いを持った県民である生徒を排除しているのです。

伊織さん家族や支援者が教育委員会と話し合いを続けて、今年3回目の受験を目指しているのですが、県教育長は昨年11月27日にわざわざ記者会見まで開いて「重度知的障害のある生徒に対しては法律上その特性に応じた教育課程を提供できないので、生徒の学びを保障できない」との見解を表明しました。つまり受験する前から伊織さんに対して「不合格」を突き付けてしまったのです。

この不条理に対して怒りが起こらないわけがありません。沖縄タイムズや琉球新報のメディアもこの問題を流し、全県的な関心を引き起こす事態となりました。同時に全国様々な地で行われている「定員内不合格を出させない」運動と連携して注目されているところです。

その沖縄県教育庁交渉に参加しました。その報告です。午後1時に開始して、日をまたいで続けた交渉のほんの一部ですが、雰囲気なりとも伝わるでしょうか――

少し時間をかけて、沖縄県教育庁交渉の内容をまとめたいと思っていますが、とりあえず簡単な報告だけでもと、書きだしました。私の解釈や記憶、メモがあいまいなので、不確かのところもあることをご容赦願います。すでに参加者からたくさんの報告をメールやFBに書いていただいているので、ぜひご覧ください。

午前10時半に打ち合わせ。午後1時県庁13階の会議室にて、交渉が開会。

私は最前列に座らせてもらって緊張でうつむいていたのですが、いきなり、大阪にも視察に行ったけれども「重度知的障害のある生徒に対し、法律上その特性に応じた教育課程を提供できず、生徒の学びの保証ができない」という「11・27 見解」を何ら変えることのない、「ゼロ回答」を読み上げられた時、その「オオサカ」の音に反応してスイッチが入り一気に交渉モードに突入しました。目の前で「大阪の『ともに学び、ともに育つ教育』は法律に違反している」と断罪されたようで、「それはちゃうで！」と心で叫びながらマイクを持っていました。後は参加者みんなで行け行けドンドン！！



大阪では課長を出席させることもなかなか難しいのですが、最初から参事が出席して進め、途中休憩時には教育長室の前に集合して待ち続け、4時50分に教育長を交渉の場に引っ張り出すのですから、沖縄の交渉団の底力にはびっくりしてしまいます。

そして日にちの変わった12時50分、お父さんの仲村晃さんの「子どもは地域の宝である」という言葉で締めくくって交渉を終えました。

確認されたのは、

1. 「11・27 見解」について謝罪したうえで撤回する。
改めて「高等学校では、重度知的障害のあるなしにかかわらず、入学したすべての生徒に対して、法律上学びの保証をすることができる」との文書を公開し、校長会にも知らせる。
2. 合否の決定は校長裁量である。
3. 希望する学校・校長に、「こんな生徒と保護者が希望している」と話すことはできる。その際、保護者も同席できる。
4. 障害者が入れる高校の制度設計（仕組みづくり）を早急に取り組むが、それまでの間、正式な入学ではないが、高校に「居場所」を作れないかと考えている。（教育長からの提案）
5. 2月の早い時期に再度の話し合いの場を持つ。

—以上、松森のメモによる確認です。



決して小さくはない回答を教育長の口から引き出したとはいえ、現状においては伊織さんの高校入学は絶たれたままだと、私には思われます。教育委員会も間に入って高校側との話し合いをすることや、「試験的に」高校に「居場所」をつくってみるといった提案などがありましたが、高校生として入学する道はまだ開かれていません。

50人を超える障害当事者や支援者で会場がいっぱいになる中、徐々に日をまたぐ交渉に参加しました。いやあ沖縄の人たちは熱く

燃えてるサー！（あれ、また出てしまいました）みんな明るいサー！！

みなさんの地域でも障害のある生徒の高校受験の取り組みがきっと生まれています。特に知

的障害のある生徒にとって「定員内不合格を出させない」運動は、具体的で切実な声として広がっています。注目して応援していただければと思います。